

東日本大震災

あの日を未来になぐ、宮城のいま。

NOW IS.

2020.4.11

Vol.

48

April, 2020

ナウイズ
毎月11日発行



山崎 雄勝
石巻市

普通の夫婦の 小さな一歩から始まった 大きな支援の輪。

NOW IS.

対談

Talk Session

in 石巻勝雄

ISHINOMAKI Ogatsu

津波によってすべてが流され、生活の色が失われた雄勝を花と緑の力で復興するために、被災した住民自らが立ち上げた「雄勝ガーデンパークプロジェクト」。今回は、その拠点となる「雄勝ローズファクトリーガーデン」に、俳優のムロツヨシさんと訪れました。プロジェクトの合言葉は「人とつながり、希望を紡ぐ」。地域住民やボランティアとのつながりに支えられて、今年8年目を迎えたプロジェクトについて、代表の徳水夫妻にお話を伺いました。

復興の主人公であることが心の癒しにつながる。

徳水利枝さん（以下利枝）「私は生まれも育ちも雄勝です。津波で海沿いの実家が流されてしまい、そこで母も失いました。ちよつとしてから実家があつたところに行ったら、辺り一面まつ茶色なの。見渡す限り家もなくて、茶色の地面と瓦礫だけ。さみしくなつて、2012年の春に、一株の花を植えたんです。それが始まり。
ムロツヨシさん（以下ムロ）「

Murotsuyoshi

ムロツヨシ

PROFILE

1976年生まれ、神奈川県出身。俳優。大学在学中から役者を志し、下積み時代を経て、テレビドラマ、舞台、映画など幅広く活躍中。近年は「LIFE〜人生に捧げるコント〜」など、喜劇にも活動の幅を広げている。

むろつよし

どんな時も、自ら動く大切さを
二人の姿から学びました。





人とのつながりで生まれた
みんなのガーデンです。

最初から、雄勝全体に活動を広げたいと思っていたんですか？
利枝！そんなこと全然思わなかったんですよ。実家の土地に花を植え始めたら、それはいいね、と支援して下さる人が現れてきたんです。その中の一人が、今も助けてくださっている仙台の造園会社の社長さん。「庭のブ口にはブ口の技があるから」と士を入れてくれたりして、だんだんと活動が大きくなってきました。

徳水博志さん（以下博志）！こちらからボランティアの募集を

したことは、一回もないんですよ。同じ人が何度も来てくれたり、新しい人を連れてきてくれたりする。今のガーデンも、レインガから何から全部ボランティアの人が手伝ってくれたんです。私たちは普通の夫婦ですが、そんな小さな個人でも、一生懸命最初の一步を踏み出すと、自然と人がつながってくるんですよ。たった一步で、輪が広がる。人間って、捨てたもんじゃないんだな、とつくづく感じました。
△ロ！そうが、一步踏み出す、ですか。最近は大きな自然災害

が増えて、日本中どこにいても、いつそういう場面に直面するか分からない状況じゃないですか。自分も、何かあったとき、徳水さんのように一步踏み出せる人間でありたいですね。
利枝！始めたころは、人に助けてもらうだけじゃなくて、自分が行動する側になりたいというのありました。当時は靴もドロドロ、財産は今着ているものだけ、みたいな状態だったでしょう。人に面倒見てもらわないとどうしようもない状況だったんですけど、やっぱり心のどこ

かで、これじゃいけないと思うてたんです。支援を受けるだけじゃなくて、生み出す側になりたい、というか。
博志！そう。支援慣れするのは、一番良くない。
△ロ！支援慣れ！なるほど。これは、当時の状況を経験した人からしか出てこない言葉だなあ。
博志！与えられることに慣れると、待つるばかりになるんですよ。でも、それじゃあいつまでたっても、本当の癒しにはならない。行動して、自分が復興の主人公になって、はじめて癒

しになるんです。自分が、自分の環境を変える主体になるのが、本当の復興なんじゃないかなと思っています。
△ロ！これから、新たにやりたいと思っていることはありますか？
博志！オリーブの木を植え始めました。北限のオリーブ。来年くらいから商品開発もして、雄勝の新たな産品をつくれたいなと思っています。今度は花が咲いている季節に！ボランティアに来てくださいね！
△ロ！そうですね、ぜひ！



Tokumizu Rie

徳水利枝

とくみずりえ

Tokumizu Hiroshi

徳水博志

とくみずひろし

PROFILE

利枝さんは一般社団法人雄勝花物語代表、博志さんは共同代表。雄勝を花と緑の力で復興したいという思いで立ち上げた。現在は、ガーデン内の管理運営や体験教室などのほか、オリーブを活用した地域産品の開発も目指している。

見変る雄勝の風景を 今なお続く復興の現場。

訪れて感じる。 9年目の復興の現場。

「雄勝ローズファクトリーガーデン」には、カリフォルニアやローマをイメージした庭が作られています。「ボランティアの方と相談しながら、1年かけてつくりました」と徳水博志さんは話します。ガーデンの奥には、北限のオリーブの畑も。「葉はお茶にするので、噛むと甘いですよ」と博志さん。ムロさんは、

おそろおそろ葉を口に、「あ、甘い…？いや苦いですよ！」と苦笑。

「せつかくご縁をいただいたので、ここで自分に何ができるか考えたい。手伝いに来るのもそうだし、なにか寄贈したりできそうですね」とムロさんは目を輝かせて話しました。

昼食はおがつ店「屋街の「伝八寿し」で。盛りがよく、リーズナブルな定食に驚きの声をあげるムロさん。店主の加納竜司

さんは、「ありがとうございます」と笑います。「雄勝で店をするのはもうやめようと思っていたんですけど、食堂がなくて困るという声が多くて。地元の人も工事関係者も来るので、寿司だけじゃなくて、蕎麦やうどん、丼も出すようになりました。震災前から3000円くらい値段を下げたかな」。もうすぐ今の仮設商店街がなくなるという話に、ムロさんは「目に焼き付けておかないとな」とつぶやきました。

Visit
石巻・雄勝
ISHINOMAKI
Ogatsu



MORIUMIUSの木の廊下で、スタッフの原田さんと。



おがつ店「屋街の「伝八寿し」で店主の加納さんのお話を伺いました。



MORIUMIUSの寝室の天井は、船の底のような構造になっています。舟大工が多かった雄勝町の学校ならは。



MORIUMIUSの裏山から、雄勝の海を一望しています。「本物の穴場だよね」と見入るムロさん。



雄勝ローズファクトリーガーデンのオリーブ畑。オリーブオイルやオリーブ茶などの開発を目指しています。

ここに注目！
NOW IS. EYE'S



築100年近くの木造校舎を改装した体験型宿泊施設「MORIUMIUS」。1泊や2泊の短期滞在プログラム、1週間のサマープログラムなど、小中学生が自然を体感できる仕組みがあります。大人の研修も受け入れられます。

最後に訪れたのは、廃校になった桑浜小学校を改装したごとの複合体験施設「MORIUMIUS」。サステイナブル、ローカル、ダイバーシティをテーマに、小中学生の子どもたちに交流の場を提供しています。教室を改装した寢室を見て、「これは枕投げしそうだなあ」とムロさん。薪で炊くお風呂、鶏やヤギなどの動物。村のような雰囲気にも、楽しそうなムロさん。「ごみはたい肥にしたり、お風呂の排水をお米作りに再利用したり、循環型の

自然の中で生活する経験をしてもらっています。薪を割ったり、火をおこしたり、子どもたちも楽しんで参加してくれるんですよ」とスタッフの原田明季さん。ムロさんは「こういう経験をするのがどれだけ大切なことか。自然の優しさと怖さを同時に感じるというのは、大人でもワクワクしますね」と笑顔を見せました。

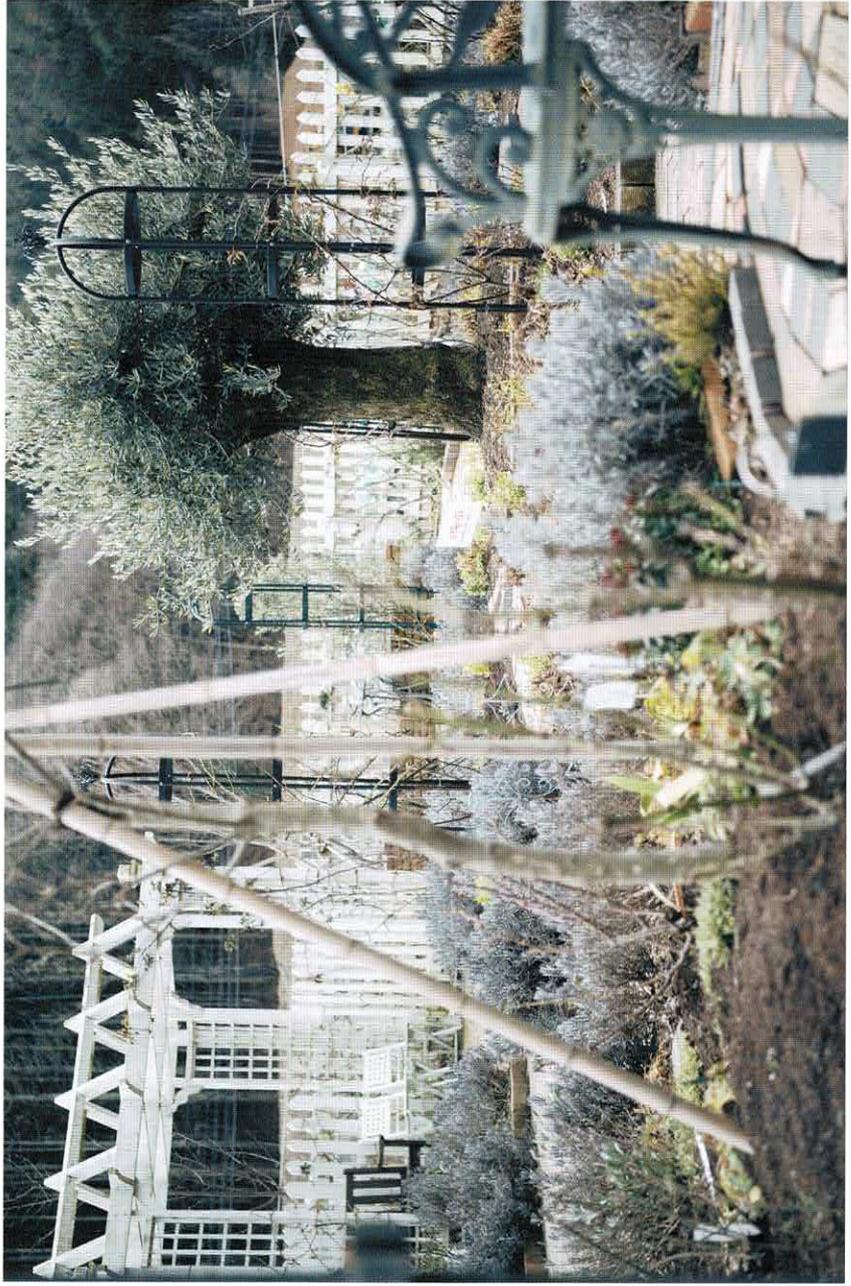
「東日本大震災の後、現地に行って支援できなかつたという後悔がずっとあって。今日来られ

て、本当によかつた」とムロさんは言います。「実際に経験した人たちの言葉は重いですね。9年経つても続く復興の様子を目の当たりにして、今からでも被災地向き合ってみようと思えました。ほくみために、ずっと後悔を抱えている人っていると思う。そういう人は、思い付きで来てみたり、支援してみたらいいと思うんです。今回ほくは雄勝に縁ができました。どんな形であれ、これからも雄勝とつながっていけたらと思います」。

みやぎのタカラ

Treasures of Miyagi

宮城県が得た震災の教訓や復興の道筋は、未来に役立つ宝に育ちつつあります。この地で生きる人々の想いとともに、世界に発信していきます。



FILE No. 12 おがっ 石巻・雄勝

雄勝ローズファクトリー ガーデン

一般社団法人
雄勝花物語



雄勝の人々が育てる 手作りのガーデン

雄勝の海沿いにある雄勝ローズファクトリーガーデンは、バラを中心としたイングリッシュガーデンです。江戸時代、雄勝から世界に出発したと言われる慶長遣欧使節団にちなんでカリフォルニア、ローマ、スペインなどをイメージした庭が設けられています。バラのシーズンは5〜6月ごろ。多彩な種類のカラフルなバラが咲き誇る風景は圧巻です。

ガーデン内には、地域の女性たちが働くカフェもあり、コーヒーやソフトクリームを味わいながら散策することもできます。近年は「北限のオリーブ」の栽培も、オーナー制度で支援者を募集する予定です。

ガーデンを中心とした「雄勝ガーデンパークプロジェクト」も動き出しています。MORIUMUSなど、雄勝の主要な場所をつないで、まち全体をガーデンとして捉え、まちを盛り上げていくという取り組みです。

一株の花から始まった活動は、多くの人の力を借りながら、大きく飛躍しようとしています。

NOW IS. 48

発行：2020年4月11日 宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目18番1号
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493
[復興情報発信プロジェクト]を伝えるプロジェクトです。

宮城県
Miyagi Prefectural Government